

## 第5回八戸市協働のまちづくり推進委員会 議事録

【日 時】平成24年8月9日（木）18時30分～

【場 所】市庁別館2階 会議室C

【出席委員】浮木隆委員、北向秀幸委員、五戸保夫委員、佐藤博幸委員、田頭順子委員、西島拓委員  
※齊藤綾美委員欠席

【事務局】野田祐子市民連携推進課長、下斗米一哉主幹（市民協働GL）、佐藤彩子主事、新井田昇主事

### 1 開会

（司会：下斗米一哉主幹（市民協働GL））

### 2 委員長あいさつ

皆さんこんばんは。この資料のサイズを見て大変だなと思っていました。私としては仮採点をしながら疑問というか論点の整理が必要だと思っていて、実は昨日、事務局の方を呼んで話をしておりました。今日は仮採点の結果を皆さんとお話する中で新しい視点があれば、そこは議論の中身に入れていながらやっていきたいと思います。2時間という枠なので、すべてをやりきれないかもしれませんが、仮採点結果を見てのとおり、全ての団体を選定することは厳しい状態になっているので、むしろ今回選ばれない団体に対してしっかりと説明ができるよう、この場でしっかりと話し合っていかなければならないという印象を持っておりました。今日は、議論を深めていけるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

### 3 案件（平成24年度「元気な八戸づくり」市民奨励金・災害に強い地域づくり応援コース申請事業の書類審査）

【制度概要、審査の流れ及び審査方法について】

（資料に基づき事務局から説明）

※地域コミュニティ計画の掲載事業は、多賀地区連合町内会自主防災会の多賀地区連合町内会防災訓練だけではなく、精査したところ、小中野地区自主防災会の津波避難訓練事業も地域コミュニティ計画の掲載事業であったため、事務局において10点を加点した旨、報告。

【申請書提出団体及び事業名称について】

（資料に基づき事務局から説明）

#### 【申請書類に基づく採点・評価（11件）】

##### ●委員長

それでは早速、1番目の南白山台町内会です。順位からすると3位になっています。これについて、皆様より御意見をいただきたいと思います。

##### ●委員

全体の方向性として、11件の申し込みがあり、ほとんどが防災訓練だが、訓練を行ってれば奨励金が出るという捉え方でいいのか。私はあくまでも、評価項目の有効性や継続性という基準に沿って採点していたため、辛い点数になっています。ほとんどの事業が一過性のようで、訓練のための訓練みたいなのが多いという印象で採点しました。

##### ●委員長

〇〇委員の採点の中では、該当するものと該当しないもので点数の幅が出ていますか。それができているところは、点数が高いという感じになっていますか。

●委員

満点を付けたところもあれば、辛い点数を付けたところもあり、極端になっています。具体的に言えば、北白山台は満点を付けたのですけれども、ここは非常にきめ細かく、仕組みまでしっかりとできており、申し分ないと感じました。多賀地区については、地域で話し合いを積み上げてきた結果できた計画だということで、高めの点数にしています。そのような感じで、あとは訓練のような訓練だという印象がすごくあります。

●委員長

全体の印象としての御意見でもかまわないと思っているので、どうぞ。

●委員

これ（南白山台町内会「要見守り世帯」支援事業）は新規の事業ということで、高齢者や障がい者の実態把握からスタートして訓練などを実施していくという事業だと思います。実際、自主防災組織を立ち上げて、色々な活動をしていく中で、地域の実情をどう捉えていくかということが、多くの地域で大きな課題になっているような気がします。ですから、そこから始めるということは、すごく先を見ているなと感じ、いい評価にしています。ただ、予算面で奨励金をあてにしているように感じます。事業費（対象経費）における事務費が比較的高い。まずは自腹を切ってやってみるというくらいの気持ちですが、私は必要だと思っていて、足りない分を役所をお願いします。これを見ると明らかに奨励金を期待しており、こういう事業のやり方はどうかと思います。目指す方向はいいと思うのですが、自分達でいかに事業費を捻出するかということが課題だと思います。

●委員

防災マニュアルを、平常時と災害時というふうに細分化してやっていくということは優秀だと思います。私は、去年の震災を風化させず、ただ防災訓練を繰り返すのではなく、地域でそのための仕組みを作っていく、またできるだけ多くの住民を巻き込んでいくということが大事だと思って見ていました。それを期待できるのが北白山台と思っており、だから点数を高く付けました。

●委員長

実は昨日の段階で、全体的な意見があったほうがいいかと考えていたのですけれども、差し支えなければ、個別の話に入る前に、全体的なことについて〇〇委員から何かありませんか。

●委員

まず、単位町内会で申請しているものと、連合町内会で申請しているものの2つがあると思います。〇〇委員が言うとおりの、自助努力による自己予算の必要性ということについて、私もその視点が重要だと思います。見てみると、やはり連合町内会のほうが（自己予算が）多く出ている。単位町内会は、自己予算ということは厳しいのかと思います。ただ、年度途中の事業なので、どうしても奨励金に期待する部分が大きくなってしまふのだと思います。

●委員

連合町内会であれば、ちゃんとタッグを組んで事業が展開されると思います。要は、事業母体がどこなのかというところを見ていたのですけれども。

●委員

連合町内会と単位町内会との違いということは、あると思います。

●委員長

事業母体で、採点上の違いは何か出てくるのですか。

●委員

それはないです。ただ、〇〇委員が言う自主財源ということについて、私もそこを見ていたので、どうしても連合町内会と単位町内会は、そこが弱いということです。

●委員長

自主財源について、選考基準のどこかに反映されているわけではないのですか。

●委員

ないです。ただ気持ちの上で、やはりそういうところも見ましたということです。それから、〇〇委員が言うとおりに、単に防災訓練だけとなると、どうしても点数が低いのではないかという印象を受けています。

●委員長

それでは〇〇さん、全体の話でも構わないのでお願いします。

●委員

全体的に防災訓練がほとんどなのですけれども、自分の採点では訓練以外で特色があるものという視点で点数は付けました。ただ、テーマが災害に強い地域づくりということなので、共通のものが多くて、个性的かつ新鮮なものとなると、やはり決まってくるのかと思いました。

●委員長

〇〇さんの採点では、防災訓練以外のものをやるというところが高い点数になっているという感じなのですか。

●委員

全体的に、防災訓練に消防を呼ぶというふうに普通のことをしているのがほとんどで、それ以外の個性的な事業については少し高い点数を付けました。

●委員長

それでは、〇〇さんはどうでしょうか。

●委員

私も、通常の防災訓練だけのところは点数を低めにしていました。その他のこともやろうとしているところは、若干点数を高くしていました。それで点数についてですけれども、極端に点数の差が開いている人——しょうがないのですけれども、そうなる人の影響というものがかなり出てくるということを感じていました。例えば、最高点と最低点を除いて見てみると、3位～4位あたりの順位がガラッと変わってしまいます。1位と2位になっているところは、変わらないと思うのですけれども、その辺をどうするかということが問題なのではないかと思います。

●委員長

全体の意見を聞かせていただいたのは、点数が大きく違うのは何故なのか、皆さんがどのような考えで採点しているのかということ把握したかったからです。点数については、(満点の)6割というボーダーラインがあります。6割以下のものは選ばれず、8割以上のものは満額交付ということになります。8割から6割のものについては、考えていかなければならないので、全体の状況を把握していただいた上で、今日改めて点数付けをしていただきたいと思います。それから、各委員の点数にブレがあって分かりづらかったので、事務局に委員毎の順位を資料に記入してくださいとお願いしました(別紙:交付対象事業選定評価一覧(事前審査)参照)。これを見ると明らかに各委員の順位が大きく違う団体が分かり、それが一つの課題ということで大事なポイントと思っていました。

それから、〇〇委員がお話した地域のニーズということについて、私も一つ大事なポイントだと思っていました。地域のニーズが把握できているということが明確に伝われば、そのための対応ということで、自然とシナリオが読めるので点数は高くなると思います。それが〇〇委員の行った計画性ということにつながるのではないかと考えています。まずは皆さんがこの申請書を見て、ニーズを読み取れるかどうかということが大事だと思っています。

そして、私からの提案ですが、地域のニーズというものが選定基準のどこに入ってくるかというのと、配点が30点と一番ウェイトが高い有効性だと思っており、ここに最も影響を及ぼすだろうと思っています。この有効性については、地域のニーズに対する有効性なのか、それとも予算に対する有効性な

のか、意見交換の中でも違う意見が出ていたので、そこをどうするかということについて皆さんの意見を聞いておきたいと思っています。どうでしょうか、〇〇委員その辺り。

●委員

地域のニーズに対する有効性と言うけれども、そのニーズを我々が十分に把握していないので、地域のニーズと言われると難しい部分があると思います。

●委員長

有効性については、どのように考えていったらいいか、どうでしょうか。

●委員

私は計画書で狙っている効果と、企画に至った経緯が合致しているかどうかという感じで有効性を捉えていました。例えば、防災意識などを高めるといったときに、その事業が有効なのかどうかという捉え方でやっていたので、わりと辛めの採点になってしまいました。

●委員

目的とその事業内容がマッチしているかどうかということか。

●委員

要するに、期待される効果というところに対して、やろうとしている事業が有効なのかどうかというところを見ました。それから何故この事業に取り組もうと思ったかというところも参考にしながら審査しました。

●委員長

具体的に言うと、防災意識の醸成という言葉で表現しているところも結構あります。私たちは地域の現状が分からないので、それが本当に必要なのか——南白山台はあまりできていないという印象を受けますが、今回の震災で実際に被害を受けた多賀と小中野に関しては、書いていることが具体的な津波の話や経験に基づいた対応の訓練とかを書いているので、点数が高くなっているのかと全体を見ていて思っていました。恐らく、白山台の住宅は震度6強がきても倒れないと思うので、緊急性、ニーズとすればあまり——若しくは、津波が来るということに関しても1次被害は多分大きくならないだろうから、住民としてもわりと震災が遠い話で、例えば水が流れない、電気がつかない、お年寄りが暮らせるかどうかという2次的被害の状況があるのかという、そういうエリアなのかと、それぞれの地区を分析していました。点数を付ける際に、それぞれの方が何らかの大まかな基準を頭にいれているかと思っていましたので、そこの部分を最初にお話ししなければ、バラバラになってしまうと思い、そこを心配していました。どうでしょうか、〇〇委員、何かありますでしょうか。

●委員

私が一番重視したことは、目的と事業内容がつながっているかどうかということで、次に予算面です。やはり事業をやるということは、課題があり、それを解決していく。そして事業をやってみると次の課題が出てくる。そういう流れがあるわけです。だから、新規事業とこれから継続していく事業とでは多少見方が違ってきて、点数の配分も違ってくると思います。やはり、その中で緊急性や必要性というか、地域の実態を見ながら考えていかなければならないと思っています。それから、その地域がどの部分を一番重視しているのか、防災訓練をやるのが目的なのか、それとも訓練を通じて地域の実態を見ながら、次の取り組みを考えていくということまで考えているのかということをも自分なりに資料から読み取る努力をしました。

●委員

地域のニーズが全然把握されていないのではなくて、やはりその事業の企画に至った経緯というのがニーズとして出てきているのだと思います。我々は、詳しく分析をしているわけではないのですけれども、そこを的確に捉え、それが目的になって事業へとつながるといふふうに脈絡がちゃんとしているところがいいと思います。そういう流れで考えていくと、総意としてこういう順位になっている

のだろうかと思います。〇〇さんが言うとおりで、やはり単なる防災訓練だけではということが、皆あるとは思いません。

●委員長

おっしゃるとおりで、私もすごく迷ったところです。動きだそうとしているところを応援するほうがいいのか、緊急性がある、しっかりと計画を練っているところに点数を付けるべきか、すごく迷いました。

●委員

今、生の点数で順位が出ていますけれども、皆さんが1位、2位と考えたようなところはブレがないと思うけれども、3位、4位、5位、6位については、それぞれの委員の色々な考えが入っているので、自分の意図とは違う順位になっているということは当然あると思います。だから、今の議論を踏まえて再度点数を付けていただくということなのだと思います。

●委員長

まさにそういうことで、それを踏まえていただきたいと思っていただけです。〇〇さん、〇〇さん、その辺どうでしょうか。

●委員

自分の見方にこだわるようで恐縮ですけれども、北白山台についてはチラシの配り方一つを取ってみても、段階を踏んで概要版と詳細版を配るという、非常にきめ細かいという気がしていました。また、訓練終了後に報告会をやって、さらに同じ日に時間をずらして地域住民との反省会みたいなことをきちんとやるということになっていて、よく分かっているなという気がしました。

●委員長

個別の話については、この後にやっていきたいと思うので、今は採点のあり方についての話をしていきたいと思います。

●委員

私が悩んだところは、例えば、「劣る」と「大変良い」ということについて、イメージが湧かなかったということです。劣るということはどういうことなのか、逆に大変良いとはどういうことなのか、イメージが湧きませんでした。だから大変良い、劣るというのは付けませんでした。

●委員長

点数を付ける意味を必ず考えると思うので、私も同じ意見です。皆さんもそうかもしれませんが、〇〇さん、〇〇さん、個別の議論に入る前に全体の話として、その辺り何かありますでしょうか。

●委員

私は参加人数のところを見ていました。30人、40人の小規模でやるものと、何百人と考えているものとは、やはり人数の多いほうがいいのではないかと思います。

●委員

私もそこは共通しています。

●委員長

その部分は有効性の部分に関わってくるのか、どうでしょう。それぞれの項目の中で、人数というのは自分の中で大事なポイントでした。

●委員

私も人数の部分は見ていたのですけれども、美保野など小さい地域の中での地域おこしというか、やる気というか、そういう部分をそれぞれ見ていました。また、白山台は北と東と南の3つがあり、共通しているのは、まだ自主防災組織が立ち上がっていないということと、町内会への加入者を増やしたいということです。しかし、よくよく見てみると3つの地区でも、もっていき方というか過程がやはり少し違っているので、差が付いたということはありません。やはり、小規模だから浸透しない

かという、そういう部分の情熱の深さというか——たくさん人がいても、例えば2の気持ちでいる人と、小さい地域でも5の気持ちでいる人もたくさんいると思うので、そういう地域おこしになるかという視点で点数を付けました。

●委員長

分かりました。皆さんの視点をお伺いしたあとに個別の話に入っていくので、採点が変わる方もいるかもしれません。皆さんから多くの視点をいただいた上で、自分はこの視点を取り入れていくということは、それぞれの項目ごとにあるかもしれないと思ったので時間を取らせていただきました。それでは、そろそろ個別の議論に入らせていただきたいと思います。よろしいですか。

(全委員承諾)

●委員長

それでは、見方も共有できたかと思しますので、早速、南白山台町内会に入りたいと思います。ここは順位からすると3位です。それぞれの委員の順位は、ほとんどが5位以上になっており、皆さんの評価が高いので、あまり議論しなくてもいいかもしれませんが、一応、今の状況ということですので、話し合いをして点数を変えたい項目があれば、採点の時に変えていただきたいと思います。それでは、この件について、〇〇さん何か御意見はありますか。

●委員

特にないです。

●委員長

〇〇委員は、どうでしょうか。

●委員

すごくいいと思ったのは、期待される効果のところで町内会加入者に入会のメリットをPRするという部分がすごくいいと思って見ていました。

●委員長

そうですね。〇〇さんはどうでしょうか。

●委員

他と共通していない部分がボランティアかと思えます。小中野も充て職にしていますが、他の地域では充て職にしているところが多いと思えます。やはり、これからは充て職ではないということ、ボランティアということが重要になってくるということで、点数が高くなっているのかと思っていました。

●委員

私は予算書の「ボランティアの顔合わせ」という部分が疑問でした。それから、プリンタ用インクやコピー用紙などの事務費が結構な金額になっており、必要経費ということなのでしょうけれども、立ち上げ時にはこういう経費が掛かるのだなと見ていました。

●委員長

個別の予算に関しては、今回、議論に上げるかどうか、すごく迷っています。本音を言うと、聞きたいことはいっぱいあります。付帯意見としてはあるかもしれませんが、事務局でも細かいところまでは、やり取りをしていないと思しますので、この中で考えていくということだと思っています。

●委員

奨励するという意味ですからね。

●委員長

そうなのですが、意見として出たことは団体に伝えられると思えます。ここについては、予算的なことはあるかもしれませんが、皆さん比較的评价は良いということなので、次の上大久保のほうに入ってよろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

それでは、次の上大久保に入ります。ここは順位とすれば5位です。ただ、各委員の順位が3位から9位になっており、点数でいうと49点の差があります。全体で見ると2番に大きな点差になっているので、議論が必要なところだと思っています。ぜひ御意見をいただきたいと思います。

●委員

私はすごく辛い点数を付けています。この事業は、老人ホーム（紬の家ザ・セカンド）のための訓練みたいな印象があったので辛い点数を付けました。ただ、それが悪いということではなく、かなり狭い範囲での対策をとっているという印象で見えていました。

●委員

参加見込み人数が40名～50名となっており、ポスターやチラシは各50部で13万円の費用になっているが、何か違うのではないかと感じていました。

●委員

ここは他の地区と比べると事業内容が大分細かく、放水訓練や消火訓練などは他の地区の計画には入っていないです。なぜこういう訓練内容なのかと思ったら、やはり白銀大火の経験があるからこういう内容になっているのかと思います。災害時あじるあんしんカードを作成するというところで、どういう効果が期待できるのかなど、今後どのように地域へ伝わっていくのかというところが、もう少し見えてもいいかと思っています。事業内容とすれば、色々な取り組みをしているし、住民への対応というものを細かく考えていると思っています。

●委員

災害時あじるあんしんカードについて、私も民生委員をやっているのですが、他の民生委員の方からは個人情報の関係で動くことができないという声をよく聞くので、このカードがすごく活かされてくると思うし、市とは関係なく作成するという点がすごく重要度が高いと思っていました。このカードが皆のところでは発行されるとしたら、もう少し色々な面で動きが取れるのかということを感じていました。同じ5位の八太郎と比べると、重要度が違うと感じました。

●委員長

重要度が違うということは、どういうことでしょうか。

●委員

個人情報の面で、市が管理する個人情報にとどまらず、よりもっと身近にとらえることができると書かれていたので、そういう部分がいいなと思いました。

●委員長

分かりました。〇〇委員はどうですか。

●委員

先ほど、人数の話をしたのですが、やはり大人数を対象にするか、少人数を対象にするかということになると思います。全体的なことをやろうとしているのか、一部に特化してやろうとしているのかの違いだと思います。そういう視点で見ると、この事業は結構いいのかなと考えが変わってきているところです。

●委員長

〇〇委員はどうですか。

●委員

参加人員について、町内会の全体の人数が出ていないので分からない。だから、これぐらいの人数だろうということだと思います。災害時あじるあんしんカードの作成は、本人が情報を開示してもいいですということであれば貼っておけばいいし、町内に情報を提供しますということで、これは冷蔵

庫に貼るもの、それとも冷蔵庫の中に入れておくもの、どちらでしたか。

●委員

冷蔵庫の外に貼っておくものです。

●委員

外ですか。冷蔵庫の中に入れるものもあるんですよね。いずれにしても、助けられたいという方が出してくれればいいと思います。本人が嫌だという人は、いつまで経っても変わらないと思います。その辺を突破口にしてやっていくということなので、いい印象を受けます。

●委員長

私は、老人に対してどのように対応していくかということで、南白山台はボランティアを使っていくのだけれども、実際に災害が起きたときに、それぞれの方達にどうアプローチするかというところまでは突っ込んでいない。上大久保は災害時あじるあんしんカードを作成して対応していくという具体的な話だと思っていました。多分、地域としては災害が起きたときに必要だろうという危機感があるエリアなのだと感じていました。今の意見を踏まえ、皆さん点数付けをしていただければと思っています。それでは、次の類家五丁目に移ってもよろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

それでは、類家五丁目です。全体の順位からすると11位となっています。それぞれの委員の方の順位も8位、7位と全体的に低くなっていました。まずは皆さんから意見をいただきたいと思います。

●委員

単に防災訓練を重視している感じを受けます。

●委員長

皆さんの点数が低いので、さきほどとは逆であり議論する必要性がないかと思うのですが、団体さんにフィードバックする必要があるので、なぜ点数が低いのかという部分をお聞きしたいと思います。

●委員

私は、ありきたりの防災訓練だと感じます。地域として高齢者や障がい者への支援をどう取り組むかということが大きな課題になっているような気がします。そこの部分が少し欠けていると思っていました。それから、拡充部分として情報伝達やAEDの取り扱い訓練を行うということですが、これは拡充としての取り組みではなくて、日常で行わなければならないと思って点数を低くしています。

●委員

今までやっていることに少しプラスすれば、奨励金をもらえるかもしれないという考え方できているような気がします。応募してきた団体が少しではなくて、色々なことをしようとしているので差がついているような気がします。

●委員

弱者とは、具体的にどういう方を救いたいのかということがあります。一般論として、町内の住民ということですが、弱者の人を救うための具体的なことがあったほうがいいのかなどと思いました。以前は避難誘導のみであったが、今回色々と加わったから町内の方達は充実していると思ったのではないかと思います。

●委員

私は、この事業も訓練のための訓練にすぎないと捉えています。有効性、継続性、発展性、実現性ともに括弧書きの内容に合っているかどうかというところを重要視していたので、極端な点数になっています。

●委員長

類家五丁目に関しては、やはり地域のニーズというところ、高齢者であったり、障がい者であったりというところが、書類からは全く見えてこない。他の団体はその部分を最初から出してきているので、読み手とすれば見えてしまうのだと思います。それでは、次の八太郎に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

八太郎は全体の順位では5位です。ここも各委員の点数に開きがあり、34点も違いがあるので、議論をしたほうがいいと思います。ここはハザードマップと避難経路看板という部分がポイントとなっており、それをどう評価するかということだと思っています。また、八太郎は実際に今回被災しているので、緊急性があるということであれば判断が——ここからは時間が押してきているので、意見がある方だけに意見をいただきたいと思っています。どうでしょうか。

●委員

ハザードマップというものがあまり分かっていないのですけれども、例えば、足を運んでマップを作るということとは違い、何メートルと決まっていることだけを書くという観点からすると、骨を折らないでできるのかなという感じを受けました。

●委員長

被災を経験した中でも補える部分があるのではないかと考えています。看板は実際に歩いて把握した上で設置するのかと考えていました。

●委員

行政のように、ここ、ここと決まっているものではないのですか。

●委員長

そうではないと思います。

●事務局

行政としてのハザードマップは、まだできていません。県の津波シミュレーション結果が出ないとハザードマップは作ることができないという状態です。

●委員

それでは、素人がやろうとしていることなのですね。まだ行政のほうのハザードマップができていないのに、住民でできるものなのかという気がします。

●委員長

どう評価するか。実現性かもしれません。

●委員

実際に今回の震災で、どうであったかということでやろうとしているのではないのでしょうか。

●委員

東日本大震災では、こういう状況だったというふうに。

●委員

私はそういうことも必要なのではないかと思います、点数が高いほうでした。後世に残していくことも大事なのかと思いました。

●委員

必要性はすごく感じているし、具体的に何をやるのか明確であると思います。私は事業が確実に実現する可能性が大であるということで、点数を高くしました。避難経路の看板を設置することは、大事なことだと思います。いざというときに、どこへ逃げて避難するのかということで困った地域がたくさんあったようですので。

●事務局

補足ですが、ハザードマップのイメージ図をいただいております。(イメージ図を提示) こういった形で作るということで、行政が作るような色分けしてというところまでは考えていないかと思えます。

●委員長

実際のところ、情報としては、どこに逃げるといふことしか伝えられないと思えます。私も商工会議所で湊を歩いているのですが、実際にフィールドワークをしてみるとすごく分かります。実際に歩いてみると色々なことが見えてくるので、住民と一緒に調査しようということはすごく大事なことだと思います。だから、ぜひそういう方向にもってってもらいたいと思っています。

●事務局

このハザードマップ(案)を見てみると、津波の浸水予測値とかではなくて、地震が起きたらどこに逃げるといふ経路を書いたり、どこが危険なのかを示すものなのではないかと読み取れると思えます。ですから、行政でいうハザードマップとは全く別物と考えています。避難経路地図程度かと認識していただいたほうがいいのではないかと思えます。

●委員長

ハザードマップは避難経路まで書いておらず、地図を色分けして浸水何メートルのエリアというふうに、単純に浸水エリアしか分からないものです。なので、住民にこういうものを作ってもらわないと駄目だと思います。

●委員

予算を見てみると、もうこれをやるのだということで、単純でスッキリしている。

●委員長

それでは一通り皆さんから御意見をいただいたので、次に移りたいと思えますが、よろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

次は多賀地区です。全体の順位では1位です。各委員の順位を見ると1位と2位になっており、皆さん高い点数となっています。なぜ点数が高いのかという理由は、ニーズがはっきりしている、緊急性もあるということだと思っておりますので、よろしければ次の北白山台に移りたいと思えますが、よろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

北白山台です。全体の順位では4位です。各委員の順位を見てみると1位から11位まであり、評価が分かれています。ここについては、少し議論が必要かと思っております。

●委員

私は、ここが一番高得点でした。

●委員長

先ほど理由は伺っておりましたので、よく分かります。私もそういう視点で読んでおりました。

●委員

他地区にも参考になるものではないかと思っております。

●委員長

ただ評価が分かれており、1位をつけた方もいれば、11位とつけた方もいるのが現状で、真っ二つに分かれています。

●委員

ここは防災訓練を重視しているのか。資料の経緯のところ、住民同士の絆を深め合い、語り合い、ぬくもりのある地域にするということが書いてあるのだが、そのために何をするのかというのが分か

らない。もっと地道な防災訓練の取り組みであってもいいのかなという気がします。

●委員

だから点数を低く入れていると思うのだけれども、どこか一過性のような感じがします。

●委員

この良さは、防災DAYにできるだけ多くの住民を集めたいということで、色々な工夫をしているところだと思います。チラシを2段階で配ることもそうですし、クイズ大会やはしご車体験など、他所で人気が高く、人集めに有効であるという情報をしっかりと把握し、取り入れようとしている。いかに多くの住民を巻き込むかというところを考えているので、非常にいいと思います。その他PR事項の欄に書いてあるとおり、訓練の成否よりも住民の参加を重要視しているということで、良く分かっている人だと思いました。

●委員長

自主防災組織を立ち上げるというところのニーズを、どう有効性として捉えるかということだと思います。この日は多くの人に遊びに来てほしいという観点だと思っていました。これはすごく点数付けが難しいと思っていて、評価が分かれるだろうと思っていました。ただ評価が分かれたことを調整しようということではなくて、皆さん様々な視点で順位付けをされていると思うので、まずはこの状況を把握してほしいということです。

●委員

津波の心配がない地域ですからね。

●委員長

それはあると思います。多分、倒壊の危険性もないでしょう。その点を順位付けの中でどう評価するかということは確かにあります。防災訓練をやったことがない地域としては、これだけ計画を練っているということは、すごく参考になるはずです。

●委員

アイデアは面白いと思うのですが。

●委員長

〇〇さんと〇〇さんはどうでしょうか。

●委員

北白山台はゼロからのスタートということで、これを機会にまちづくりへとつなげていこうということを感じます。内容は普通だと思うのですが、やはり産みの苦しみという部分ではすごく大変だろうと思うところがあります。またアンケートについて、南白山台でもやっていたようですが、内容が分かりやすいのでいいと思いました。

●委員

防災DAYということなので、ただの防災訓練ではなく防災まつりのような形で捉えているのかと思います。運動会や盆踊りみたいに、この日に皆が集まって色々なことをやろうというもので、おもしろい考え方をしていると思っていました。これを毎年続けていければ、町内の皆が集まり防災について考える日が増えるということで、面白い良い取り組みだと思います。

●委員長

ここについては、〇〇委員からも意見をいただいていたので、これまでの意見交換を踏まえた上で本採点をお願いしたいと思います。その他に何かありますでしょうか。

(意見なし)

●委員長

それでは次の小中野に移ります。ここは全体の順位は2位です。皆さんが付けた順位を見てみても割と高めの点数なので議論の必要がないところかと思っておりました。その他の議論をする中で、小

中野についても点数を付けなおすのであれば、それはそうしていただくということで、次に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

次は東白山台です。全体の順位は8位です。各委員の順位を見てみると点数の開きが大きいので、ここについては議論が必要かと思っています。いかがでしょうか。

●委員

防災をテーマにした講演会とタウンミーティングを開催することにしているが、まずは自分達で動いてみようという必要性が希薄というか、少し弱い気がします。外部から講師を呼んでお話してもらい、刺激を受けて頑張ってみようという外部をあてにした事業のように感じました。

●委員長

タウンミーティングについて、言葉尻のように感じます。ミーティングはやっているの、あとはやり方の工夫が必要だと思います。会議であれば、それほどお金はかからないと思うのですが、最終的には啓発資料まで作る話になっているので。

●委員

その点は大きいと思います。

●委員長

啓発資料というものが、何なのだろうと思いました。ここは自主防災組織がまだ立ち上がっていないので、会議を開催していった最後に組織を作るという話なのだけれども、予算が大きいので気になっていました。

●委員

この啓発資料は、オリジナルのものを作るのですか。

●委員長

分かりません。作る側としては結構大変だと思います。イメージがないと書けないと思います。

●委員

どこかで作っている防災に関する冊子なんかを自分の町内のネームに変えてやるだけかと思っていたのだけれども。

●委員長

予算的なことを言えば、わざわざそこにお金をかけているので、自分でできないのかなという気もします。

●委員

講師の旅費や謝礼だけで8万円もかかっているけれども、講師関係の費用が8万円ということは、普通は考えられないと思います。

●委員長

啓発ということで、東北大の准教授を呼ばないといけないのかというところの評価が分かれると思います。

●委員

誰かの友達とかではないか。

●委員長

10万円や20万円もかけないで来てもらえるということは有り難いと思うのですが。

●委員

型にはまった計画ばかりで、本当に人のつながりが薄い地域という気がします。人とのつながりというか、温かみというか、先ほどの北白山台とは全く違い、人と人を結びつけるようなものがないと

いう感じがします。もっと人と人をつなげるような計画であればいいのかと思います。

●委員

ここはアパートが多いのではないか。

●委員長

北白山台ではないが、楽しいことをやってくれば良いと思うのだが。

●委員

実際にタウンミーティングをやったとして、どのくらいの人があるのか。奨励金を貰ったはいいが、誰も来なかったということが想像できる。

●委員長

確かに計画は立てたけれども人は集まらずという可能性は高いという印象を持っています。〇〇委員は、実際に現場でやられているので、人を呼ぶことの大変さが分かっているのだと思いますけれども。

●委員

アパート群をどうにかしたいという気持ちは伝わってきます。

●委員

そういうことであれば、もう少し違うやり方もあると思います。魅力がなければ、わざわざ行ってみようという気にならないと思います。

●委員

物を差し上げるわけにはいかないし、難しい。

●委員長

肯定的な意見もいただいたほうが良いと思うのですが、どうでしょうか。

●委員

私は人の集め方にチャレンジしているという点を評価したのですが、〇〇委員が言われたように、確かに地域住民の方、特にアパート住民に関心を持ってもらえるかどうかというところがポイントだと思います。ただ集合住宅の多い地区だから、企画する人達が何とかしたいということでスタートするという事は評価してあげたいという思いだったので、肯定的な評価になっています。参加してもらおう方が肩書きのある人で用意された人達という感じではなく、本当に一般住民の声として語ってくれる人が確保できれば、申し分ないと思います。

●委員長

そこまで読み取ることはできないですが、私もその部分は感じます。私もフィールドワークをやってきたので、意見はすごく分かるのですが、そこまでやっているかどうかは分かりません。実際に白山台を歩いて調査すると、すごくリアルに動きが見えると思うのですが、先ほどの〇〇さんの話ではないのですが、何とかして多くの人を巻き込もうという動きが見えず、結果として人が集まらないという可能性はあると思います。しかし肯定的な意見もいただいたので、皆さんには点数付けをする際の判断材料にさせていただければと思います。それでは次に移りたいと思いますが、よろしいですか。

(全委員承諾)

●委員長

次は千田町内会です。ここは全体の順位とすれば10位になっています。各委員の順位とすれば非常に開きがあるので、ここは議論する必要があると思っております。

●委員

ここは防災意識の向上を大きな目標にしています。防災意識を向上させるためには、防災マップの作成や防災訓練の実施なども大切だと思うのですが、それ以前にもっとやれることがあるような気が

しています。考えてからやるのではなくて、やりながら考えるということがあってもいいのではないかと思います、もう少し具体的にやれることをやってみたらという気がしました。だから、私は低い点数を付けています。

●委員

私は結構高い点数なのですけれども、こういう看板は防災意識のあるなしにかかわらず、見ればそうだと分かると思います。例えば、町内会に入っている、入っていないに関係なく、また防災訓練に出る、でないに関係なく、こういうものを見るだけで効果はあると思います。

●委員

私は全く逆の見方をしていました。例えば、10メートルの防潮堤があるから大丈夫だろうというふうに、それがあることによって逆に危険になるということがあるのかと思いました。今回の震災で本当に命からがら助かった人などが、過去がどうだったとかではなく、大きな揺れがきたらすぐに逃げるべきと話しているのを聞いて、むしろそういう過去のことは考えないほうがいいのかという気がしていました。

●委員

私は看板など明快なもので防災意識を上げるということだったので、点数が高くなったと思います。

●委員長

そこは逆に言えば、そういう意見があった場合にどう点数が変わるかどうかだと思います。私も〇〇委員と同じ視点は持っています。やはり避難経路を明確にして、いざという時は考えなくても逃げると話。小学生でも分かりやすいという視点で見た場合に、防災意識向上という事業名称と合致したところでの点数を付けていったらどうだろうかというところで、千田町内会は大きい点数差になっている気がします。〇〇さんどうでしょうか。

●委員

看板だけではなく、具体的な行動というか、住民の動きがあったほうが良いと思います。予算的にも材料費や印刷費にすごく大きなお金がかかっているような気がします。マップ、看板のどちらかを削って、具体的に住民が動くようなものをプラスすれば、もっと評価は高いと思います。

●委員

ここは地域の連携がすでにとれているところなのではないかと思います。だから、町内会加入率などもういいということで、次へのステップアップなのだと思うので、これでいいかと思います。

●委員

何メートルあるから大丈夫というより、海拔が低いから危ないですという見方なのか、これをどう見るかによって変わってくると思います。避難の際はどこに逃げてくださいと書いてあれば、分かりやすいのかと思っていました。

●委員長

今のこの話を踏まえて皆さんには採点をしていただきたいと思います。町内会とすれば、それなりの経緯を踏まえて活動されているということで、組織的には良いということだと思います。今回の企画の中身については、あまり詳しく読み取れないけれども、恐らくやってしまうだろうということはあると思います。

●委員

もう少し具体的に、こうだから次はこれをやるという感じで書かれていると把握しやすかったと思います。この文面だけを見るとそう捉えがちですが、地域住民が一緒になってやっているということが書いてあれば、もっと評価は高かったと思います。

●事務局

補足ですが、訓練をやっているかどうかは分かりませんので。

●委員

訓練はやっていないかもしれないですね。

●委員

訓練はやっているかどうか分からないけれども、町内としては新聞に載っていたりしています。

●事務局

ここは大雨など、水害という点で問題がある地域だったと思います。

●委員長

全体の順位からすると10位となっている一方で、各委員の順位では2位や5位というのもあるので、ちょっとそこが。

●委員

別に色々な意見があっただけいいと思います。

●委員長

とりあえず千田町内会に関しては視点が違うということが分かりましたので、それぞれの方の視点を踏まえた上で、また採点をしていただきたいと思います。それでは次に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

次は白銀台六丁目です。ここは全体の順位では9位です。各委員の点数にもあまりブレはありませんが意見をいただきたいと思います。

●委員

オリジナル防災マニュアルを発行したと書いてありますが、その中身についての情報は入っていますか。

●事務局

実物は見ていないのですが、新聞などで確認したところ、平成24年4月1日に作成したそうで、家庭向けの自主防火・防災マニュアルだということでした。

●委員

白銀の場合は、防火というのが入ってくるんですね。

●委員

これは自分達で作った、オリジナルですよ。

●事務局

そうです。申請時にマニュアルの実物を添付していただいたほうが、イメージが湧きやすいと話をしたのですが、在庫がないということでした。

●委員長

それこそ、ここはある程度ずっと活動をしてきているようなイメージがあるのですが。

●事務局

自主防災組織自体は、4月に設立されました。

●委員

ここは2位と10位というように、そんなに差は開いていないですよ。

●委員長

あまり差は開いていないので、議論をするかどうか迷うのですが、全体の順位からすると9位なので外れてしまうことになるのですけれども。

●委員

訓練では、参加者全員が器具を使用して体験することなのですからけれども、100名もの方が参

加して2時間というのは。

●委員

100名が白銀台の生活館に入るのか。

●委員長

その他に意見がなければ、次にいきたいと思いますが、どうでしょうか。

(意見なし、全委員承諾)

●委員長

それでは最後の美保野です。ここは全体の順位は7位で、各委員の順位も大きな差はありません。ただ入るかどうかが微妙なところなので、議論が必要かと思っていました。防災マップの作成と消火栓の整備、防災訓練ということで、今まで防災活動はしてこなかったのかと。

●委員

防災マップが1冊あたり2,000円と結構な額なので、結構な中身のマップになるのでしょうかね。

●委員

1冊2,000円ではなくて、200円ですよ。ただ、この地区で1,000部も必要なのかという。

●事務局

電話で確認したのですが、配布先は町内会の全世帯と地域内の病院や施設、それから公民館などの役所の出先機関などに配布したいということで、1,000部にしているということでした。

●委員

ただ要援護者に関する情報が入ったものが地域内から出ていくこともどうかと思います。

●委員長

やはり周知の方法として、防災マップは作っていかないと駄目なのですかね。

●委員

これは防災マップなのか、福祉マップなのか、それとも災害時要援護者マップみたいなものなのか。

●委員長

もちろん30万円という枠の中で取り組んでいくのでしようけれども、美保野地区の状況が具体的に分からないので、ここは評価が分かれてしまうと思います。

●委員

青年サークルまきば会の設立経緯を読むと、ここが今、美保野中学校がなくなろうとしていて、そういう土地なのだとということが分かった気がしています。私は計画書自体に感動していて、ここの地区を甦らせたいという意欲がすごく感じられると思っていました。これで誰もいなくなれば、本当に死んだ土地となってしまうけれども、こういう団体が設立することによってまだ生き延びられるというか、逆に市民の人達もどうして美保野があんなに——大学もありながら、家も建てられず、家が建てられれば小中学校も継続できていたのにと。八戸市は調整区域が多くて、番屋平にしてもどこにしてもそういうところに不満があるので、ここはそういう土地なのだと。バブルの時代に切り開いたところで、草刈り一つをとってもすごく大変な思いをしているということは、もっと市民の人が知るべきだと思い、私は内容よりも設立の熱意ということで点数を入れました。

●委員

私もここは若い人達がチャレンジするところをプラスに見ていました。あと消火栓を普段から草刈りをして、いざというときに使えるようにしておくという取り組みはいいと思っていました。それから美保野地区は世帯数がそれほど多くないと認識しているのですが、1,000部も印刷する必要があるのかという感じはしていました。

●委員長

分かりました。それではここで個別の議論を終わらせていただき、本採点に入りたいと思います。

5分くらい採点して、終わった方から休憩ということをお願いします。

(別室にて、事務局が各委員の採点を集計)

●委員長

それでは集計が済んだようですので、事務局より集計結果の発表をお願いします。

●事務局

評価点数の集計結果について発表いたします。1位から順に発表いたします。

第1位 多賀地区連合町内会自主防災会 評価点数：497点 獲得平均点：82.8点

第2位 小中野地区自主防災会 評価点数：450点 獲得平均点：75.0点

第3位 北白山台町内会 評価点数：406点 獲得平均点：67.7点

第4位 南白山台町内会 評価点数：396点 獲得平均点：66.0点

第5位 上大久保町内会 評価点数：379点 獲得平均点：63.2点

第6位 八太郎町内会 評価点数：378点 獲得平均点：63.0点

第7位 美保野町内会、美保野青年サークルまきば会 評価点数：361点 獲得平均点：60.2点

第8位 東白山台町内会 評価点数：344点 獲得平均点：57.3点

第9位 白銀台六丁目町内自主防災会 評価点数：332点 獲得平均点：55.3点

第10位 千田町内会 評価点数：329点 獲得平均点：54.8点

第11位 類家五丁目町内会 評価点数：308点 獲得平均点：51.3点

以上のとおりです。

### 【奨励金交付対象事業の選定】

●委員長

ありがとうございました。ただ今、事務局から各事業に関する採点結果と順位について説明がありました。この結果に基づきまして、奨励金の交付対象事業の選考並びに奨励金交付金額の決定に移りたいと思います。先ほど事務局から説明があったとおり、奨励金の交付対象事業については各委員の評価点数の平均点が概ね満点の6割以上のものに関して対象ということになります。6割以上で対象となりますので、あとは点数の高い順に選定することになっています。満点の8割以上のものについては満額支給となります。それから6割から8割までのあいだについては、委員により交付額を決定することになっておりますので、予算の範囲内で奨励金を割り振ることが可能になっています。可能ということで、割り振ってくださいということではありません。それでは対象事業について奨励金額を決定したいと思います。まず多賀地区に関しては8割を越えていますので、ここはまず満額で考えていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

それから8位の東白山台以下は6割を切っておりますので、ここは対象外ということで決定させていただいてよろしいですか。

(全委員承諾)

●委員長

それでは2位から7位までの団体になるのですけれども、ここの選び方について御意見をいただきたいと思います。予算総額は150万円になりますので、単純に上から考えると5位の上大久保までになるわけです。まず、その視点が1つあるかと思います。あともう1つの視点とすれば、60点を超えている団体に関して、案分をするかどうかという視点もあるかもしれません。また70点とか、60点とか、点数の離れ具合で案分してみてもはどうだろうかという考え方もできるかもしれません。細かいところになりますけれども、八太郎と美保野に関しては3点くらいの開きで、上大久保と八太郎に関

しては0.2点しか変わらないということです。そういう状況にありますので、ちょっとここは悩むところになるかと思っています。このような点数の状況を見まして、御意見をいただきたいと思います。

●委員

私は上からという案がいいかと思っていたのですが、ただ5位と6位があまりにも点数が近いので、上から4団体はそのまま、5位と6位で半分ずつということでしょうかと思います。

●委員長

上大久保が30万円満額の申請ですので、そこはちょっとお話をしなければいけないかもしれないですけれども、まずその方法もあると思います。どうでしょうか、皆さん。御意見をいただいた上で決めなければいけないので。〇〇委員はどうでしょうか。

●委員

4位までを満額にして120万円、5位と6位を15万円ずつという形——15万円をもう少し案分できないか。

●事務局

すみません、よろしいでしょうか。

●委員長

どうぞ。

●事務局

申請額が30万円と19万5千円で違いますので、申請額に応じた金額の案分ということはできます。そうすると、例えば申請額で案分すると、上大久保が18万2千円、八太郎が11万8千円という形になります。

●委員長

はい、分かりました。これに関して、〇〇委員は何か。

●委員

点数からすると1位は満額で、2位と3位は結構開いているのですよね。2位と3位を同じくするか、少し差をつけたほうがいいのか、そこは悩んでいます。

●委員長

具体的にどのようにしていったらいいかというところまで、突っ込んでいただきたいのですけれども。

●委員

満額出して、次は何パーセントと単純にやったほうがいいのか、そのままどうなのか、色々と悩んでいたのです。

●委員長

はい、分かりました。それでは〇〇さんどうでしょうか。

●委員

さっきお話していたように、1位から4位までは30万円で、5位と6位はさっきの案分でいいと思います。

●委員長

〇〇さんはどうでしょうか。

●委員

何パーセントにすべきというところはよく分からないのですが、ただ本当に個人的な意見なのですが、1位と2位が満額、3位と4位が次のウェイトで、5位と6位と7位がまた一括りみたいな感じで、3つに分けて点数を付けたらいいのかという程度しか思いつかなかったのですけれども。

●事務局

補足で説明をさせていただきますが、基本的には60点以上のところは対象になる事業と考えていただいていると思います。金額については配分ができる、可能だという話になります。もし何パーセントという配分をした場合——そこが30万円で申請しているとすれば、例えば20万円にして差し上げますと決めた場合には、その地域、その団体さんから金額を修正した形で申請書を出し直ししてもらわなければならないという作業が出てきます。そういったことも考え合わせの上、御意見をいただければと思います。

●委員

60点以上のところは出さなければならないということではないのですよね。

●事務局

出さなければならないということではないです。対象にはなりますという考え方です。

●委員

そうですね。60点を超えていても、切ることもありますよね。

●事務局

そうです、はい。

●委員

そうであれば極力満額のところを増やしたほうが、貰うほうもやりやすいのかという気はしますけれども。

●事務局

恐らく案分をするということになると、その金額で大丈夫かどうかということが出てきます。可能か確認した上で、それだとできないということになれば、その団体は対象外になってしまいます。点数はいいにもかかわらず、辞退ということになってしまいます。

●委員長

60点以上は対象なのですがけれども、まず7位の美保野に関しては予算的なことを考えるとちょっと厳しい状況で、外れてきているような状況です。5位、6位までにするか、3位から6位までを入れるかという意見が出ています。票数からすると、まず5位と6位で案分という案が、〇〇さんと〇〇さん、〇〇さんの3人から出ています。意見交換した上で決まるわけですがけれども、どうなのでしょう。上大久保はまず点数的に——あともう1つは入れ替えをするという決断でいくか。0.2点でも順位を優先するという考え方もありますので、そこは最終的には皆さんにお諮りしますので、あと意見をいただけない方。

●委員

八太郎町内会に先に聞いて、(減額しても)もし貰うというのであれば案分になりますよね。また、それであれば来年もう1回申請しますという意見であれば、その分をなしにするというやり方もできるのかなと、それによって上大久保が。

●事務局

浮いた分の11万8千円を上大久保に加算して、30万円まで出すというやり方ですか。

●委員

そういうやり方が、できるかどうかですけれども。

●委員長

ただ、点数が高いのは上大久保なので、上大久保のほうで30万円を切ったもので実行できるかという意見を聞くほうが先かなと思うのですけれども。

●委員

でも、八太郎町内会のほうに聞くという——でも(申請額が)19万5千円ということですので、差

額が少ないからやれると思うのです。ただ問題は上大久保かなと思います。30万円が18万円になるということですので、ここから先に聞いたほうがいいのかと思うのですけれども。それで、いいとなれば案分でもいいと思うし、八太郎は恐らくやれると思うのです、19万なので。ただ上大久保は半分以下というか、少しだけになってしまうので、ここが一番ネックかと私は思っておりました。

●委員

団体に聞いてから決めるのではなくて、ここでとりあえず決めなければならないのですよね。

●事務局

そうです。

●委員

団体に聞いていませんというのであればそれまでで、いりますというのであればいりますということだから、ここで決めるしかない。

●委員長

そうですか。悩ましいけれども。

●委員

それであればいりません、来年勝負をかけますというところもあるかもしれないし、もう精も根も尽きたので、それでもいただきますというかもしれない。団体は結構くたびれて書いていると思います。

●委員

今回やりませんとなったときに、その予算は来年に回せるのですか、回せられないのですか。

●事務局

回せられないです。

●委員

そう考えれば、単純に5位までで切ったほうが良いような気がします。それで6番でしたという話をすれば、来年出してくるのかなど。

●委員長

皆さん方の御意見を聞いて、それで最後に決を採りたいと思います。

●事務局

多分、予算書とかを見ながら考えるのが必要なかもしれません。

●委員

例えば希望の金額に達していない、そうしたときに購入予定の備品を減額して、その金額の中で再修正みたいなことはOKなのですか。

●事務局

はい。減額して、その範囲内でやるように修正することはできます。大きく事業内容が変わらなければ、購入しようとしていた備品を少し減額してとか、そういう調整でやれるのであればそれはそれでOKです。

●委員

貰うほうとしては手間がその分かるけれども、修正しなければならないという。

●事務局

例えば予算上の変更だけで、やることはそのままであれば、予算書だけを差し替えてもらえばいいです。

●委員

奨励するという意味では、できれば満額を渡したほうが良いのですけれどもね。

●委員

このコースは、何年間やるのでしたか。

●事務局

平成 27 年度までの 4 年間です。

●委員

4 年あると考えると、今回半端にもらってもう終わりというよりは、来年満額もらったほうがいいような気がします。

●委員長

それでは決をいただきたいと思います。まず 3 つほど選択肢が出ていると思います。まず上から 5 位までを選択をするというやり方。もう一つは点数の近い 5 位と 6 位に関して案分をするというやり方。それから最後、70 点を超えている多賀と小中野を除いた、3 位から 6 位までの間での案分を考えていくというやり方。3 つの意見が出ていると思いますが、ほかになかったですかね。一応そういう解釈をしておりました。では皆さんで決を採りたいと思います。まず上から 5 団体の予算の枠までで決定ということを考えている方は手を挙げていただきたいと思います。

(全委員挙手)

●委員長

全員ですか。私が決める必要がありませんでした。それでは他はありませんので、5 位までで決定ということで御回答をお願いしたいと思います。確認ですが、交付先は 1 位から 5 位まで、多賀から上大久保までになります。委員の皆様よろしいでしょうか。

(全委員承諾)

●委員長

それでは審査は終了になります。他に何か御意見はありますか。

(意見なし)

ないようですので、議事を終了しまして司会進行をお返しします。

●事務局

委員の皆様、審査お疲れさまでございました。ただ今、選考いただいた事業及び交付する奨励金額について確認させていただきます。

- ・多賀地区連合町内会自主防災会 奨励金希望額：300,000 円
- ・小中野地区自主防災会 奨励金希望額：300,000 円
- ・北白山台町内会 奨励金希望額：300,000 円
- ・南白山台町内会 奨励金希望額：300,000 円
- ・上大久保町内会 奨励金希望額：300,000 円

以上、5 件の事業について奨励金交付対象事業として、交付決定の手続きを進めさせていただきたいと思います。

## 4 閉会

(司会：下斗米一哉主幹 (市民協働 GL))